



●Tackle Guide
船宿特製仕掛けは大アジ用のハリス3号2メートルの2本バリと、コンニャクバリを使ったハリス2号1.8メートルの3本バリなどがある。アンドンピンはオモリ80号。市販品はないので船長手作りピンを無料で借りられる。



▲特製仕掛けは船でも購入できる

高めのタナで良型連発
1時間ほどで食いが一段落してその後はポツポツ。船長の話では、数日前はこのポイントで朝から沖揚がりまで食いつばなしで30〜40センチ級がトップで70尾以上釣れたとか。この日も反応はバッチリ出ているそうだが、潮が気に入らないのか食い渋っているという。

この日は皆さん常連さんで釣り方を見ていると2通りに分かれていた。一つは、仕掛けを下ろして54メートルで止め、1メートル上げて一振り、もう1メートル上げてもう一振りコマセをまき、タナに合わせて待つオーソドックスな方法。もう一つの釣り方は、54メートルで止め、コマセシャクリのように30〜40センチ刻みで5〜6メートル上まで誘い

▼高校生の女子もアジの引きを満喫



上げる方法。この釣り方は活性の高い浮いた大アジ狙いに効果的で、硬い上アゴにハリ掛かりする確率が高く、良型を抜き上げても口切れでバラすことが少ないそう。私も竿を出す。まずはオーソドックスな釣り方を試すと25センチ級のアジが上がった。続いて、コマセシャクリのような釣り方に変えると、51メートルまで誘い上げたところでクタクツ、キュンと竿先が入る。強烈な引きだ。浮かせてタモで取り込んだのは35センチほどの黄金色のアジ。アジって青物なんだよな……と改めて認識させる引きだった。再投入して誘い上げると同じように51メートルでクタクツときて同級が上がる。これがヒットパターンとなり数尾追

加して喜んだが、やがて潮がたるむとアタリが遠くなった。下げ潮が動き始めた10時半ごろ再び食いが立ち30〜35センチ級がバタバタと上がった。30分ほどで食いは落ち着いたが、その後も潮回りや移動を一度もすることなくポツポツ釣れ続け13時に沖揚がりとなった。釣果は20〜35センチ級が7〜20尾でわたしは7尾。同船ではカウントしない小アジも含めれば倍以上は釣れていた。この日は好調の谷日に当たってしまったわけだが、数日後からトップ40〜50尾と復調。船長によれば、4月になれば



▲ベテランはさすがの腕前で数をのぼした

幅広く身に張りがあり、黄金色を帯びた体色のアジをさばくと、身はほどよく脂が乗っていてプリプリ。刺身、なめろう、塩焼きと、とびきりうまい金アジは家族に大好評であった。

●船宿information
内房金谷港
忠七丸
☎0439-69-2143
(詳細は巻末の情報欄参照)
▶料金=アジ乗合一人9000円(コマセ、付けエサ、氷付き)
▶備考=8人限定予約乗合(当日空席があれば予約なしでも乗船可)、7時出船



井戸 貞雄船長



▲忠七丸で釣れるアジは体高がある太った金アジが中心

2月24日、アジを狙って内房金谷港の忠七丸へ。金谷のブランドアジ「金アジ」といえば、だれもが耳にしたことがあるだろう。その金アジを専門に狙い続けている船宿だ。SNS全盛の現代において同宿はあえてホームページを

作っていない。マスコミ関係のつながりといえば本誌のみ。その理由は、あまり情報を出してもお客さんがたくさん来て常連さんに迷惑がかかるからと井戸船長が話してくれた。8名限定の予約乗合で、平日にもかかわらず満船の人気ぶり。わたしはカメラバッグ

一つで乗船したのだが、なんと3人グループが連絡もなくドタキャン……。船長はギリギリまで心配して待っているのだから、どんな事情があるにせよ電話で連絡するのが最低限のマナーだ。「まいったね。でも場所が空いたし貸し道具もあるから、内山さんも釣りをしたいいなさいよ」と船長。これもなにかの縁と素直に船長のご好意に甘えさせていただくことにした。

「魚礁といってもここは沈船周り。昨年の12月ごろからずっとこのポイントで釣れてます」と船長は言う。底まで落としてからタナ取りすると、すぐに根掛かってしまう場所らしい。船宿仕掛けはムツバリ2〜3本の一般的なものと、アジ漁師が使っているという昔ながらのコンニャクバリに、付けエサのダミーとして赤やピンクのビーズを通した特製仕掛けの2種。まずはムツバリ仕掛けにアカタンを付けて釣り始め、食いが立ってきたら付けエサいらずの特製仕掛けに替えて釣るのが船長おすすめの間作戦だ。開始間もなく船内あちこちでアタリがきて、30〜35センチ前後の黄金色のアジがバタバタと取り込まれた。たまに小さめのアジが交じるが、同船では15センチ未満は釣果にはカウントしていません。

ピンポイントの魚礁攻め
定刻の7時過ぎに乗船者6名で出船。港を出た船はベタナギの海を走り、15分ほどで金谷沖の魚礁周りにピタッと止まった。「海面から54メートルでピンを止めて、そこから2メートル上あたりを探ってください」とスタートの合図が出る。

「このポイントは潮があまり動いていないとき小アジが食ってくるけど、泳がせのエサにはちょうどいいですよ」と常連さん。忠七丸は四隅の釣り座では2本竿でアジを釣りつつハモノを狙えるのも特徴で、これ

を楽しむにも同船に通うファンも多いとか。また胴の間では竿は1本になるものの、ひとしきりアジを釣った後、船長の了承を得て、仕掛けを替えてハモノを狙うことも可能だ。泳がせ仕掛けはヒラメ用がちょうどよく、オモリは100号を使用する。この日は3名が

知得! Tips and Tricks
小アジは南蛮漬けがおすすめ
潮が効かないときにポツポツ食ってきた15センチ未満の小アジは、頭を落としてゼイゴをそぎ取り、二度揚げにし、ニンジンとピーマンの千切りをたっぷり加えて南蛮漬けにした。二度揚げにすると中骨もおいしくいただける。作りたてもおいしいが、2〜3日漬けると酢がなじんでうま味が増す。おすすめです!
▼調味でサッパリ、毎日食べても飽きません!